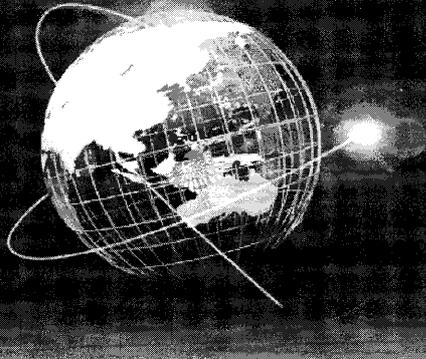


**富山大学 21 世紀 COE プログラム**  
**東洋の知に立脚した個の医療の創成シンポジウム**  
 主催：富山大学 COE プログラム

富山大学21世紀COEプログラム

**東洋の知に立脚した個の医療の創成  
シンポジウム**



■DATE **2007.11.16** (Fri) 9:00-18:00  
 ■PLACE **富山県民会館304号室**  
 (ポスター発表・304前フロアー)  
 〒930-0009 富山市新城区南 4-18  
 TEL. 076-432-3111

主催：富山大学21世紀COEプログラム  
 問合せ先：富山大学21世紀COEプログラム事務局  
 〒930-0194 富山390-2030  
 TEL. 076-434-7145 FAX. 076-434-4666

富山大学

セッションⅠ (9:30-11:10)  
 「東洋の知に立脚した個の医療の創成」の意義と展望  
 西頭 徳三 (富山大学長) 挨拶  
 鳴田 浩二 (COEプログラム拠点リーダー) 挨拶  
 蔡 少青 (北京) 活動報告  
 鳴田 浩二 (COEプログラム拠点リーダー) 挨拶  
 西頭 徳三 (富山大学長) 挨拶

セッションⅡ (11:20-12:10)  
 「東洋の知に立脚した個の医療の創成」の意義と展望  
 西頭 徳三 (富山大学長) 挨拶  
 鳴田 浩二 (COEプログラム拠点リーダー) 挨拶  
 蔡 少青 (北京) 活動報告  
 鳴田 浩二 (COEプログラム拠点リーダー) 挨拶  
 西頭 徳三 (富山大学長) 挨拶

セッションⅢ (14:00-15:00)  
 「東洋の知に立脚した個の医療の創成」の意義と展望  
 西頭 徳三 (富山大学長) 挨拶  
 鳴田 浩二 (COEプログラム拠点リーダー) 挨拶  
 蔡 少青 (北京) 活動報告  
 鳴田 浩二 (COEプログラム拠点リーダー) 挨拶  
 西頭 徳三 (富山大学長) 挨拶

セッションⅣ (16:00-17:00)  
 「東洋の知に立脚した個の医療の創成」の意義と展望  
 西頭 徳三 (富山大学長) 挨拶  
 鳴田 浩二 (COEプログラム拠点リーダー) 挨拶  
 蔡 少青 (北京) 活動報告  
 鳴田 浩二 (COEプログラム拠点リーダー) 挨拶  
 西頭 徳三 (富山大学長) 挨拶

ポスター発表 (13:00-18:00)

日時：平成 19 年 11 月 16 日  
 場所：富山県民会館 304 号室  
 (ポスター発表 304 前フロアー)

概略：富山大学 21 世紀 COE プログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創成」は本年度がプログラム最終年度であり、教育研究拠点としての報告会を兼ねて、シンポジウムが富山県民会館において開催された。西頭 徳三 富山大学長および文部科学省大学振興課鈴木 忍改革支援第二係主任の挨拶があった後、鳴田 COE プログラム拠点リーダーによる本拠点の概要説明がなされ、引き続いて 12 名の事業推進担当者による研究発表と 24 演題のポスター発表があり、活発な討論が展開された。また北京拠点の北京大学蔡 少青教授による活動報告も行われた。参加者は学内外、一般企業からの参加者を含め、計 150 余名に達した。シンポジウム終了後に学内外の評価委員及びコメンテーターによる評価委員会を開催し、本拠点における 5 年間の取組み、および来年度のグローバル COE 獲得に向けた拠点の更なる充実についての討論がなされた。(文責：柴原直利)

## セッションⅠ

- 1) 関節リウマチ患者及びアジュバント誘導関節炎ラットの血管内皮 機能障害に対する桂枝茯苓丸の効果に関する研究  
嶋田豊 教授 (富山大 大学院医学薬学研究部・和漢診療学)
- 2) 更年期障害例に対する東洋医学に基づく個の医療の創生—プロテオミクス解析による治療効果の予測—  
斉藤滋 教授 (富山大 大学院医学薬学研究部・産科婦人科学)
- 3) アトピー性皮膚炎に対する桂枝茯苓丸の治療効果及び新しい重症度指標についての検討  
清水忠道 教授 (富山大 大学院医学薬学研究部・皮膚科学)
- 4) 生活習慣病における桂枝茯苓丸の効果  
柴原直利 教授 (富山大 和漢医薬学総合研究所・漢方診断学)

## セッションⅡ

- 1) 漢方医学における「証」の科学的解明を目指した血漿プロテオミクス解析  
済木育夫 教授 (富山大 和漢医薬学総合研究所・病態生化学)
- 2) cDNA マイクロアレイを用いた関節リウマチにおける「証」の検証と漢方薬の分子薬理機構解明  
北島勲 教授 (富山大 大学院医学薬学研究部・臨床分子病態検査学)

## セッションⅢ

- 1) ヒト2型 PAF アセチルヒドロラーゼは一過性脳虚血による中枢神経ニューロン障害を防止する—トランスジェニックマウスを用いた研究—  
加藤一郎 准教授 (富山大 大学院医学薬学研究部・生化学)
- 2) 非アルコール性脂肪性肝障害 (NAFLD) の病態解析と漢方方剤の効果：新規モデル動物を用いた検討  
常山幸一 准教授 (富山大 大学院医学薬学研究部・病理診断学)
- 3) アトピー性皮膚炎の痒みの発生メカニズム  
倉石泰 理事・教授 (富山大・応用薬理学)

## セッションⅣ

- 1) 脳血管性認知症動物モデルで捉えた和漢薬の有効性と作用機構  
松本欣三 教授 (富山大 和漢医薬学総合研究所・複合薬物薬理学)
- 2) 植物エストロゲン前駆体の活性化に関与するヒト腸内細菌—Enterolactone 生成における個体差  
服部征雄 教授 (富山大 和漢医薬学総合研究所・薬物代謝工学)
- 3) 人参類生薬の遺伝的・成分化学的多様性と基原解析用 DNA マイクロアレイの開発  
小松かつ子 教授 (富山大 和漢医薬学総合研究所・生薬資源科学)
- 4) 北京大学「21世紀 COE プログラム北京拠点」における活動報告  
蔡少青 教授 (北京大 医学部薬学研究院)